

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①: 授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

【観点到に係る状況】

新入生に対して、「履修の手引」等に基づき、学部・研究科、学科・専攻等ごとにシラバスの見方、科目選択・履修登録の仕方、成績評価・単位認定の方法等の履修指導を実施している。

(資料7-1-①-A1, A2, B1) 入学時ガイダンスでのアンケート結果では、工学部・工学研究科の8割の学生が説明内容について理解したと回答を得ている。(資料7-1-①-B2)

さらに、各学部のホームページ上に授業科目や専門・専攻の選択に関わる情報を公開している。(資料5-1-①-B1)

資料7-1-①-A1 平成20年度 学部ガイダンス日程

日時		学部	教育福祉科学部	経済学部	医学部	工学部
4/5 (土)	10:00~11:00	入学式 場所: グランシアタ				
	入学式終了後 引継ぎ	学生生活における注意事項等説明会 (1時間程度) 場所: グランシアタ				
4/6 (日)	終日	学部ガイダンス 場所: 学部別会場	学部ガイダンス 学生自治会説明 場所: 学部別会場			学部ガイダンス 場所: 学部別会場
4/7 (月)	9:00~12:00	学部ガイダンス 場所: 学部別会場	学部ガイダンス 場所: 学部別会場	学部ガイダンス 場所: 挟間キャンパス		学部ガイダンス 学生自治会説明 場所: 学部別会場
	13:00~15:00	学生自治会説明会 場所: 学部別会場				
	15:00~	学生団体説明会 場所: 団体別会場	学生団体説明会 場所: 団体別会場			学生団体説明会 場所: 団体別会場

資料7-1-①-A2 各研究科のオリエンテーション日程

研究科	オリエンテーション時期
教育学研究科	入学式の翌々日 午後半日
経済学研究科	入学式終了後 2時間
医学系研究科	入学式当日 1時間 (博士課程, 修士課程医科学専攻, 修士課程看護学専攻別)
工学研究科	入学式翌日 1時間 (博士後期課程, 博士前期課程別) 入学式以降 専攻ごとに適宜
福祉社会科学研究科	入学式終了後及び後日 2時間

【別添資料】

資料5-1-①-B1 学部教育課程の例

資料7-1-①-B1 平成20年度 新入生ガイダンス日程等 (工学部・工学研究科)

資料7-1-①-B2 工学部・工学研究科ガイダンスアンケート結果

資料 7-1-①-B3 経済学部保護者懇談会参加者アンケート結果

資料 7-1-①-B4 新教務情報システム

<https://www1.kyomu.oita-u.ac.jp/oita-u/campus>

【分析結果とその根拠理由】

各学部・研究科とも履修等に関するオリエンテーション，ガイダンスを実施するとともに，シラバス・履修の手引・学生生活案内等を配布し，ホームページでも様々な学務情報を公開して周知している。

加えて，ガイダンスに対する学生の理解度も高い。

以上のことから，本観点を十分に満たしていると判断する。

観点 7-1-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

【観点到に係る状況】

学生の学業と生活のニーズを把握するため、「学生生活実態調査」や「授業改善のためのアンケート調査」、「学生と教員との意見交換会」等を実施している。（資料 7-1-②-A1, B1）意見は教育担当理事に集約され、組織的かつ個別の対応を行っている。

学生が教員と自由に面会できる時間を設定した「オフィスアワー」を全ての学部・研究科で実施し、学習相談や助言・指導を行っている。オフィスアワーの日時等はホームページに記載し、周知を図っている。（資料 7-1-②-A2）指導時の参考となるよう、「教員ハンドブックー教養教育と学生生活の支援ー」を作成し、全教員に配布している。（資料 7-1-②-B2）

また、ソーシャルワーカーが学生生活に関する様々な相談を受け付ける「キャンパスライフなんでも相談室」を実施しているほか、各学部において、保護者を含めた学習相談等を実施している。（資料 7-1-②-A3, A4）

更に、本学独自の取組として、大学・保護者・地域が連携して不登校傾向にある学生のもとへ『出かけていく』という「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援」を行っている。（資料 7-1-②-B3）この取組は独自性や有用性が高く評価され、平成 20 年度文部科学省学生支援 GP「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択された。更に、この取組の一環として、学内に「ぴあルーム」を設置し、退職高校教員を学習アドバイザーとして招聘し、TA の協力の下、就学の問題や不安を抱える学生や基礎学力に不安のある学生に対して相談や個別指導を行っている。

資料 7-1-②-A1 学習支援に関するニーズの把握方法

実施事項	実施内容等
学生生活実態調査	<ul style="list-style-type: none"> ・学部生・大学院生の学業と生活の実情を把握 ・学生のニーズを活かした学習指導や支援を実施
授業改善のためのアンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・受講した授業についての学生からの評価や意見を調査
「きっちよむフォーラム」の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育開発センターが主催 ・学生と教職員が教育内容・方法について検討 ・毎年度開催 ・平成 20 年度の参加人数 教員 56 人、学生 51 人
学生と教員との意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部門会議及び学生支援部門会議の教員と学生代表 ・平成 20 年度の実施回数 2 回（114 人）
意見箱	<ul style="list-style-type: none"> ・学内 2 か所に意見箱を設置
電子意見箱	<ul style="list-style-type: none"> ・MASIS（学生支援サービス用情報システム）上に電子意見箱を設置（資料 7-1-②-B2） ・24 時間受付が可能 ・平成 20 年度に寄せられた意見の件数 18 件
質問票（教育福祉科学部）	<ul style="list-style-type: none"> ・学務係内に質問票を置き、授業や成績評価などに対する質問を受付の上、回答
学生懇談会（経済学部）	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度実施
電子意見箱（工学部知能情報システム工学科等）	<ul style="list-style-type: none"> ・学科内専用ホームページに電子意見箱を設置 ・平成 20 年度に寄せられた意見の件数 1 件

資料7-1-②-A2 オフィスアワー・ホームページ

学部・学科・コース		URL
教育福祉科学部		http://www.ed.oita-u.ac.jp/001lippann/008gakumu/image/office.pdf
経済学部		http://www.ees.ec.oita-u.ac.jp/~echp/
医学部		http://www.med.oita-u.ac.jp/
工学部	機械・エネルギーシステム工学科	機械コース http://machls.cc.oita-u.ac.jp/officehour.pdf
		エネルギーコース http://www.en.oita-u.ac.jp/officehour/officehour.html
	電気・電子工学科	電気コース http://elecls.cc.oita-u.ac.jp/ 教育⇒オフィスアワー
		電子コース http://www.eee.oita-u.ac.jp/kyouiku/office_hour/office_hour.html
	知能情報システム工学科 http://www.csis.oita-u.ac.jp/office-hour.html	
	応用科学科 http://www.appc.oita-u.ac.jp/02_02office/pdf/officehour.pdf	
福祉環境工学科	建築コース http://www.arch.oita-u.ac.jp/office_hour.htm	
	メカトロニクスコース http://www.hwe.oita-u.ac.jp/mc/officehour.htm	
福祉社会科学部		http://www.gsssa.oita-u.ac.jp/

資料7-1-②-A3 キャンパスライフなんでも相談室ポスター

キャンパスライフなんでも相談

学生生活に関するいろんな悩み…

人間関係について

- ・友達関係のこと
- ・サークルのこと
- ・ゼミのこと

etc

学業について

- ・意欲がわからない
- ・授業についていけない
- ・休学・退学について迷っている
- ・やりたいことがわからない

etc

その他

- ・経済的な問題
- ・家族の問題
- ・なんとなく話がしたい

etc

性格について

- ・性格を変えたい
- ・自分の性格を知りたい

etc

独りで抱えていませんか？

相談時間

巨野原キャンパス	… 週2回（火・木）	13:00~18:00
挾間キャンパス	… 週1回（木）	14:00~19:00

場所

巨野原キャンパス	… 学生センター（2階）学生相談室
挾間キャンパス	… 管理棟（1階）非常勤講師控室

資料 7-1-②-A4 保護者を含めた学習相談の事例

学部等	実施事例
経済学部	<ul style="list-style-type: none"> ・成績表を学生の保護者に送付 ・進級前の2年次生保護者を対象に保護者会を実施 ・必要に応じて保護者との3者面談を実施 ・遠方から大学に来ることができない保護者に対しては、保護者会の地方開催を実施（2008年6月には宮崎で実施）
工学部	<ul style="list-style-type: none"> ・成績表を保護者に送付 ・成績不良者については保護者に状況を通知の上、3者面談等を実施

【別添資料】

資料 7-1-②-B1 平成20年度「教員と学生との意見交換会」概要

資料 7-1-②-B2 教員ハンドブック【表紙・目次】

資料 7-1-②-B3 「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援」

<http://www.gak-gp.oita-u.ac.jp/index.html>**【分析結果とその根拠理由】**

多様な方法で学生のニーズを把握している。

また、指導教員やソーシャルワーカーによる学習相談・指導体制を整備している。

更に、大学独自の取組として、学生支援GPに採択された「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援」を行っており、この取組の一環として、学内に「ぴあルーム」を設置している。

以上のことから、本観点を十分満たしていると判断する。

観点7-1-③： 通信教育を行う課程を置いている場合には、そのための学習支援、教育相談が適切に行われているか。

【観点に係る状況】

該当なし。

【分析結果とその根拠理由】

該当なし。

観点7-1-④： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

【観点に係る状況】

平成20年度において、特別な支援を必要としている学生数は、資料7-1-④-A1に示すとおりである。

本学は、平成17年度に「身体に障がいのある学生の支援委員会」を発足の上、「要支援学生のための支援ガイドライン」を策定し、授業担当教員に配布して事前説明を行うなど、要支援学生の全学的な支援体制を確立した。また、学内での有志学生による聴覚障がい学生のための支援体制を整備し、ノートテイク30人の育成とその活用を行った。（資料7-1-④-B1, B2）

社会人学生に対しては、大学院課程で昼夜開講制や長期履修制度を設け、個々の就学環境に対応している。（資料5-5-③-A2）

留学生等に対しては、国費外国人留学生に対する大学院入学前の学習支援、日本語学習に関する特別コースや国際交流科目を設定して、学習支援の体制を整えている。（資料7-1-④-B3）また、学部生・大学院生によるチューターや指導教員による家庭学習や日本語学習の支援、地域企業・住民との交流による日本事情や日本文化の経験など、学内外のマンパワーを活用した取組も行っている。

資料7-1-④-A1 身体に障がいのある学生等の数 (単位：人)

学部・研究科	身体に障がいのある学生	社会人学生	留学生
教育福祉科学部	1	5	0
経済学部	1	3	6
医学部	0	52	0
工学部	4	0	20
教育学研究科	0	19	1
経済学研究科	1	28	18
医学系研究科	0	110	11
工学研究科	0	25	21
福祉社会科学研究科	1	21	4

【別添資料】

資料7-1-④-B1 要支援学生のための支援ガイドライン

資料7-1-④-B2 身体等に障がいのある学生の支援委員会規程

資料7-1-④-B3 国際教育研究センター

<http://www.isc.oita-u.ac.jp/>

【分析結果とその根拠理由】

身体に障がいのある学生の学習支援については、全学的な委員会を設置し、「要支援学生のための支援ガイドライン」を作成するなど、組織的に対応している。

社会人への学習支援については、昼夜開講制や長期履修制度を整備しており、外国人留学生には日本語学習に関する特別コース等の設定やチューター・地域企業・住民との交流などを活用して対応している。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

観点 7-2-①： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。**【観点に係る状況】**

学生の学習環境の整備をはかるため、教養教育棟及び全学部に自習室を設置している。

学術情報拠点（情報基盤センター）が所掌する「実習室」等には、学生が利用可能な PC を配置して、e-learning、学術情報収集、レポート作成など、授業時間外での自主学習環境を確保・充実させている。（資料 7-2-①-A1, B1）

図書館は 22 時（土日祝日は 19 時）、医学図書館は 20 時（土日祝日は 17 時、本学の構成員に限り 24 時間の利用が可能）まで開館し、夜間や休日の自主学習を可能としている。（資料 7-2-①-B2）また、学生用参考図書の購入は学生や教員からの希望調査に基づき行っており、授業科目に関連する図書を開架図書として自由に利用できるように配置している。

その結果、「図書館情報サービススタッフのサービス全般」についての満足度調査で、「満足」「ほぼ満足」「普通」が約 86% と、高い評価を得ている。

資料 7-2-①-A1 学生が利用可能な PC 設置状況（平成 20 年度）

部局等	名称	PC 設置台数
情報基盤センター	情報基盤センター・第 1 実習室	70 台
	情報基盤センター・第 2 実習室	10 台
	情報基盤センター・第 3 実習室	60 台
	教育福祉・情報教育システム室	32 台
	教育福祉・情報教育システム室	20 台
	経済学部・第 1 実習室	50 台
	教養教育棟・LL 教室	75 台
	医学部・情報処理実習室	50 台
	医学部・自己学習室	36 台
	医学部・チュートリアル教室	26 台
	医学部・看護科学実習室	16 台
	医学部・臨床講堂ホール	10 台
医学部・大学院生室	10 台	
教養教育棟	インフォメーションルーム	20 台
図書館（且野原）	パソコンルーム	20 台
	貸出用 PC（ノートパソコン）	10 台
医学図書館（挾間）	情報検索コーナー、グループ学習室、ビデオ室	22 台
工学部	インターネットルーム	28 台

【別添資料】

資料 7-2-①-B1 学術情報拠点 情報基盤センター

<http://www.cc.oita-u.ac.jp/>

資料 7-2-①-B2 学術情報拠点 図書館

<http://www.lib.oita-u.ac.jp/index.html>

【分析結果とその根拠理由】

各学部等に自習室を設置するとともに、学生が利用可能な PC を設置した実習室等を設置し、授業時間外での自主学習環境を確保・充実させている。

また、図書館には、学生用参考図書の充実を図るとともに、夜間や土日・祝祭日に開館するな

ど、自主学習の場を提供しており、その結果、満足度調査でも高い評価を受けている。
以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

観点7-2-②： 学生のサークル活動や自治活動等の課外活動が円滑に行われるよう支援が適切に行われているか。

【観点到係る状況】

且野原、挾間両キャンパスで、81の課外活動団体等が活動しており、学内には課外活動施設が整備されている。（資料7-2-②-A1）これらの施設の経年による老朽化に対しては、緊急度や学生からの要望を踏まえ、改修等を行っている。また、各学部には学生自治会が組織されており、学生生活委員会が助言等を行っている。（資料7-2-②-B1）

平成18年度から、学生の自主性・積極性・元気力を引き出し、企画・運営・実施能力等を高めることを目的とした「学生生活き²（いきいき）プロジェクト」を、平成19年度からは、学生支援協力金（学内の自動販売機の設置に伴う収益による寄付金）による「課外活動推進プロジェクト」を実施している。（資料7-2-②-A2, A3, B2, B3）

さらに、競技会、コンクール等で顕著な成績を挙げたと認められる学生又は学生団体に対し、「学長表彰」を行っている他、経済学部では独自の学生表彰制度を設けている。（資料7-2-②-A4, B4, B5）

資料7-2-②-A1 施設の整備状況

キャンパス	施設
且野原キャンパス	体育館（3）、武道場、剣道場、弓道場、屋外運動附属施設、体育研修施設、プール更衣室、器具庫、体育開放施設、陸上競技場、ラグビー場、野球場、テニスコート（11面）、バレーコート（2面）、ハンドボールコート（1面）、プール、学生会館（談話室、娯楽室、和室、集会室（6）他）、文化サークル共用施設、体育課外活動共用施設
挾間キャンパス	体育館、武道場、プール附属施設、体育器具庫、陸上競技場、サッカー場、野球場、テニスコート（6面）、プール、サークル室、課外活動共用施設

（出典：大学概要）

資料7-2-②-A2 「学生生活き²（いきいき）プロジェクト」採択件数

年度	件数	プロジェクト名
平成18年度	6件	実験教育をとおした教育活動支援
		美しい彫刻のある街づくり
		ふれあいディスクゴルフパーティー
		国際文化祭
		B-netの挑戦
		ROBO-ONE 制覇への道
平成19年度	7件	B-netの挑戦② ～情報力による 生き2 プロジェクト～
		NHK大学ロボコン全国制覇への道
		世界のダイニング
		音楽でつなぐ心と心 ～障がい児デイサービスにおける活動～
		キャンパス内の野外彫刻作品新設と既存作品（「夢の跡」）整備
		障がい児の放課後問題を考える会
		生き ² バレーボール大会

年度	件数	プロジェクト名
平成20年度	9件	第2回活き②バレーボール大会
		障がい児の放課後問題を考える会
		学内アート再発見！プロジェクト
		NHK 大学ロボコン2009 ～ABU アジア・太平洋ロボコン代表選考会～
		「学生が学生を変えていく」 大分大学情報サイト B-net
		ダンスを通じた交流活動 ～大分県下の施設を巡って～
		第三回国際文化祭
		大学対抗ロボットコンテスト九州大会
		Eco Uni-0

資料 7-2-②-A3 「課外活動推進プロジェクト」支援の実績

年度	件数	サークル等名	助成内容	理由	備考
平成19年度	8	陸上競技部	物品	顕著な成績	大分県陸上競技選手権大会
		文化会	借料	その他合同事業	文化会合同演奏会
		医学部硬式庭球部	物品	顕著な成績	九州・山口医科学生体育大会
		医学部バスケットボール部	物品	顕著な成績	九州・山口医科学生体育大会
		医学部水泳部	物品	顕著な成績	九州・山口医科学生体育大会
		吹奏楽部	物品	その他大学行事	入学式
		医学部ソフトボール部	交通費 (相当額)	全国大会(準)	西日本大学ソフトボール選手権大会
平成20年度	9	体育会・文化会 (公認サークル)	物品	その他横断的物品	第1体育館
		医学部サークル協議会(公認サークル)	物品	その他横断的物品	福利厚生施設
		手話サークルたなごころ	物品	その他大学行事	入学式
		医学部陸上競技部	物品	顕著な成績	九州・山口医科学生体育大会
		医学部硬式庭球部	物品	顕著な成績	西日本医科学生総合体育大会
		医学部剣道部	物品	顕著な成績	西日本医科学生総合体育大会
		医学部陸上競技部	物品	顕著な成績	西日本医科学生総合体育大会
		医学部水泳部	物品	顕著な成績	西日本医科学生総合体育大会
		外部指導者	謝金	外部指導者	
計	17				

資料7-2-②-A4 学長表彰の事例（学長表彰規程第3条該当者・団体）

年度	内 容	人数等
平成18年度	平成18年：(財)内視鏡医学研究振興財団 ー奨励研究採択ー	1
	平成18年：東アジア作曲家協会 ー第3回東アジア国際現代作曲コンクール4位入賞ー	1
	平成18年：Virtual Systems and Multimedia(VSMM)国際会議ー第12回VSMM国際会議最優秀論文賞ー	1
	学業成績が特に優秀（卒業又は終了時）	7
平成19年度	学業成績が特に優秀（卒業又は終了時）	9
平成20年度	第59回西日本医科学生総合体育大会（バスケットボール女子）優勝	1
	2008年度支部共通事業日本建築学会設計競技「記憶の器」最優秀賞	5
	第60回西日本医科学生総合体育大会優勝 水泳50m自由形・100m自由形 陸上競技（トラック）1,500m	2
計		27

【別添資料】

- 資料7-2-②-B1 各学部自治会規約
- 資料7-2-②-B2 学生活き²プロジェクト募集要項
- 資料7-2-②-B3 学生支援協力金取扱要項
- 資料7-2-②-B4 学生表彰規程
- 資料7-2-②-B5 経済学部学生表彰制度

【分析結果とその根拠理由】

施設の整備や「学生活き²プロジェクト」, 「課外活動推進プロジェクト」, 「学長表彰」等, 多様な支援を積極的に行っていることから, 本観点を十分に満たしていると判断する。

観点7-3-①：生活支援等に関する学生のニーズが適切に把握されており、健康、生活、進路、各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備され、適切に行われているか。

【観点到に係る状況】

「学生生活実態調査」や「学生と教員との意見交換会」，「意見箱」「電子意見箱」等により，大学生活に関する学生の意見・要望を収集している。（資料7-1-②-B1，7-3-①-B1）

健康相談等については，主に保健管理センター（旦野原地区），健康相談室（挾間地区）が対応している。（資料7-3-①-A1）保健管理センターの精神科医や臨床心理士による相談体制に加えて，ソーシャルワーカーが，学生生活や心身の健康に関するカウンセリング等を行う「キャンパスライフなんでも相談室」を設置した。（資料7-3-①-A2，資料7-1-②-A3）平成20年度には，学生支援GPに採択された「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援」事業を開始し，「ぴあルーム」を設置した。（資料5-2-③-B2）

就職支援については，「キャリア相談室」及び「再チャレンジ支援室」を設け，専門資格を有するキャリア・アドバイザーによる個別カウンセリングを行っている。（資料7-3-①-A3）更に，本学の卒業生（修了生）に呼びかけて「キャリアサポーター制度」を創設（160名の卒業生が登録）し，学部生・大学院生の就職支援体制を強化している。（資料7-3-①-B2）

各種ハラスメントへの対応については「イコール・パートナーシップ推進宣言」により大学の各種ハラスメントに対する明確な姿勢を表明している。（資料7-3-①-B3）イコール・パートナーシップ委員会は「イコール・パートナーシップの推進に関するガイドライン」を策定の上，「ハラスメント防止の手引き」の配布，ハラスメントに関する講演会の開催，実態調査等を行っている。（資料7-3-①-B4，B5）

資料7-3-①-A1 平成20年度学生の健康に係わる相談件数

キャンパス	相談内容	件数	総計
旦野原キャンパス	身体面	2,327	3,334
	精神面	1,007	
挾間キャンパス	身体面	2,830	3,404
	精神面	574	

資料7-3-①-A2 キャンパスライフなんでも相談件数

年度	件数	内訳（相談内容別件数（重複有））				
		人間関係	学業 （就職・進路 含）	心	性格	その他
平成19年度	55	10	39	12	6	16
平成20年度	51	2	54	8	0	22

資料7-3-①-A3 キャリア相談件数

年度	件数
平成18年度	426
平成19年度	600
平成20年度	657

【別添資料】

- 資料 5-2-③-B2 学生支援 GP 「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援」
- 資料 7-1-②-B1 平成 20 年度「教員と学生との意見交換会」概要
- 資料 7-3-①-B1 MASIS (学生支援サービス用情報システム)
<http://www.masis.oita-u.ac.jp/login.aspx>
- 資料 7-3-①-B2 キャリアサポーター制度
- 資料 7-3-①-B3 イコール・パートナーシップ推進宣言
<http://www.oita-u.ac.jp/category/sengen.html>
- 資料 7-3-①-B4 イコール・パートナーシップの推進に関するガイドライン
<http://www.oita-u.ac.jp/category/guideline.html>
- 資料 7-3-①-B5 ハラスメント防止の手引き

【分析結果とその根拠理由】

学生のニーズは、各種調査等により把握するとともに、健康相談、就職支援、各種ハラスメントへの対応については、それぞれ体制を整え、組織的に取り組んでいる。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

観点7-3-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

【観点に係る状況】

本学は、「要支援学生」を「障がいを持ち、就学の支援を必要とする学生」と位置づけ、「要支援学生のための支援ガイドライン」を策定し、全学的な支援体制を確立した。平成20年度は3人の要支援学生の支援を行った。（資料7-1-④-B1, B2, 資料7-3-②-B1）

外国人留学生に対しては、学部生・大学院生によるチューターを配置して生活全面にわたるサポートを行っているほか、経済的支援として、大学コンソーシアムおおいたのアクティブネットを通じて、留学生の特性を活かしたアルバイトを紹介している。（資料7-3-②-B2～B5）

また、生活施設として、留学生寄宿舎（単身室44）、国際交流会館（単身室30、夫婦室3、家族室3）を設置している。（資料7-3-②-B6）

本学独自の取組として、「外国人留学生友の会」を組織し、全留学生の学生教育研究災害傷害保険加入費の負担、緊急時の一時金貸付（無利息）、私費留学生に対する教材費及び宿舍費補助等の支援を行っている。（資料7-3-②-B7）

【別添資料】

- 資料7-1-④-B1 要支援学生のための支援ガイドライン
- 資料7-1-④-B2 身体等に障がいのある学生の支援委員会規程
- 資料7-3-②-B1 大分大学広報誌 No.20 P23
- 資料7-3-②-B2 留学生のための大分大学入学案内（2008-2009）
- 資料7-3-②-B3 国際教育研究センター
<http://www.isc.oita-u.ac.jp/>
- 資料7-3-②-B4 チューター制度
- 資料7-3-②-B5 「大学コンソーシアムおおいた」
<http://www.ucon-oita.jp/>
- 資料7-3-②-B6 留学生寄宿舎及び国際交流会館の稼働率
- 資料7-3-②-B7 外国人留学生友の会規約

【分析結果とその根拠理由】

障がいのある学生の生活支援については、「要支援学生のための支援ガイドライン」等を配付し、全学的に対応するシステムが整備されている。

外国人留学生への生活支援は、チューターによる日常生活のサポートを行っている。更に、本学独自の取組として、「外国人留学生友の会」による生活支援も積極的に実施されている。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

観点7-3-③： 学生の経済面の援助が適切に行われているか。**【観点に係る状況】**

学生の経済面の援助として、日本学生支援機構・地方公共団体・民間奨学団体による各種奨学制度の広報及び活用支援、入学料免除及び徴収猶予、授業料免除、入学料・授業料奨学融資制度などを実施している。（資料7-3-③-A1～A2）

これらの情報は「入学手続案内」，「学生生活案内」，ホームページ等において制度や手続きの紹介を行い，申請時期にはMASIS（学生支援サービス用情報システム）及び掲示板等で積極的な広報を行っている。（資料7-3-③-B1～B4）

授業料免除については学生へのアンケート結果に基づき，平成19年度から半額免除者の比率を大幅に増やし，多くの学生が制度の適用を受けられるよう改善した。また，再チャレンジ制度を活用して，社会人学生に対する授業料免除を平成19年度から実施している。（資料7-3-③-B5）

本学独自の取組として，地元銀行と連携し，在学中に発生する利子の支払いは大学が負担し，返済は卒業後に開始される「入学料・授業料奨学融資制度」を導入している。（資料7-3-③-A3，B6）

更に，国内外の経済状況の悪化を理由に，学業優秀な生徒等が進学を断念することがないように，平成21年度に入学料免除の特別枠を設けた。（資料7-3-③-A4）

経済学部では卒業生からの寄附により独自の奨学金制度「久保奨学基金」を設け，海外交流協定校への派遣留学及び国際交流行事の参加旅費や，優れた学業成果者への奨学金に活用している。（資料7-3-③-A5，B7）

資料7-3-③-A1 奨学金制度の種類と適用人数（平成20年度末現在）

奨学金制度の種類	適用人数
日本学生支援機構（第一種及び第二種）	3,293
その他 地方公共団体や民間育英団体	69

資料7-3-③-A2 入学料免除及び徴収猶予，授業料免除の種類と適用人数

入学料免除及び徴収猶予（前後期）	半額免除	徴収猶予
適用人数（申請者全体の割合）	36（22%）	138（90%）

授業料免除（前後期）	全額免除	半額免除
適用人数（申請者全体の割合）	427（31%）	543（40%）

資料7-3-③-A3 入学料・授業料奨学融資制度適用人数

区 分	適用人数	
入学料	平成18年度	0
	平成19年度	0
	平成20年度	1
授業料	平成18年度	18
	平成19年度	12
	平成20年度	22

資料 7-3-③-A4 入学料免除の特別枠制度の実施状況

事項	内容
免除対象者	学部又は大学院研究科に入学する者（科目等履修生、研究生等として入学する者を除く）であって、平成20年度9月以降に学資負担者が事業者の一方的な理由により失職した場合または景気悪化により事業が倒産した場合で、経済的理由により入学料の納付が困難であると認められる者
免除の額	入学料の全額（平成21年度は280,000円）
免除人数	40人
実施方法	入学生からの申請に基づき実施
採用人数	5名申請中、4名を許可（平成21年度入学生）

資料 7-3-③-A5 久保奨学基金主な活用実績（平成20年度）

区分	活用実績
国際交流事業	「国際学生シンポジウム2008」開催費用
	「対外経済貿易大学とのシンポジウム」開催費用
	I B P参加学生への補助（8名）
	海外留学の学生補助（奨学金）（3名）
学習支援事業	成績優秀学生等への奨学金（8名）

【別添資料】

資料 7-3-③-B1 平成20年度学生生活案内（P39～P42）

資料 7-3-③-B2 奨学支援

<http://www.oita-u.ac.jp/08campus/shien.html>

資料 7-3-③-B3 MASIS（学生支援サービス用情報システム）

<http://www.masis.oita-u.ac.jp/login.aspx>

資料 7-3-③-B4 日本学生支援機構奨学生推薦・選考における大分大学での推薦・選考基準

資料 7-3-③-B5 再チャレンジ支援プログラム経費における授業料免除選考に係る申合せ

資料 7-3-③-B6 入学料・授業料奨学融資制度規程

資料 7-3-③-B7 経済学部久保奨学基金取扱規程

【分析結果とその根拠理由】

各種奨学制度の広報及び活用支援、入学料免除及び徴収猶予、授業料免除など、積極的な支援を行っており、これらの情報は掲示の他、学生生活案内やホームページなどにより、適切に周知している。

さらに、地元銀行と連携して入学料・授業料奨学融資制度を創設するなど、大学や学部独自の経済支援策を打ち出している。

以上のことから、本観点を十分に満たしていると判断する。

(2) 優れた点および改善を要する点

【優れた点】

- 「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援」が平成20年度文部科学省GP「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択されている。(観点7-1-②)
- 学生活き²プロジェクト、課外活動推進プロジェクト等、学生の自主的活動を活性化する支援を積極的に行っている。(観点7-2-②)
- 卒業生(修了生)による「キャリアサポーター制度」を創設し、学部生・大学院生の就職支援体制を強化している。(観点7-3-①)
- 「イコール・パートナーシップ推進宣言」や「イコール・パートナーシップ推進に関するガイドライン」を定め、ハラスメント防止に向けた全学的な取組を行っている。(観点7-3-①)
- 地元銀行と連携して「入学料・授業料奨学融資制度」を創設し、学生の経済的支援を行っている。(観点7-3-③)
- 経済学部で、卒業生からの寄附により独自の奨学金制度「久保奨学基金」を設け、海外交流協定校への派遣留学及び国際交流行事の参加旅費や、優れた学業成果者への奨学金に活用している。(観点7-3-③)

【改善を要する点】

- 特になし。

(3) 基準7の自己評価の概要

- 履修・就学に関わる詳細なオリエンテーション、ガイダンスを毎学期等を実施しており、アンケート結果から多くの学生が説明内容を理解している。(観点7-1-①)
- 「学生生活実態調査」や「授業改善のためのアンケート調査」の実施、学生と教員の意見交換会、意見箱・電子意見箱、学生懇談会など多様な形態で学習支援に関する学生のニーズの収集を行っており、学習支援の課題を解決する上で有効に機能している。(観点7-1-②)
- 学習相談・助言については、全学的に指導教員による支援体制が整備されている。また、指導の参考として「教員ハンドブック」を作成し、全教員に配布している他、各学部でも、保護者を含めた面談等を実施している。(観点7-1-②)
- 本学独自の取組として「不登校傾向の学生へのアウトリーチ型支援」を行っている。この取組は独自性や有用性が高く評価され、独立行政法人日本学生支援機構の学生支援GPに採択されている。また、この取組の一環として、学内に「ぴあルーム」を設置し、就学の問題等や基礎学力に不安のある学生に対して相談や個別指導を行っている。(観点7-1-②)
- 「要支援学生のための支援ガイドライン」の策定や「身体等に障がいのある学生の支援委員会」を設置し、身体に障がいのある学生に対する全学的な支援体制を整備している。また、社会人に対して、昼夜開講制や長期履修制度によって個々の就学環境に対応している他、留学生に対しては、国際教育研究センターや国際交流課を中心として、チューター・指導教員、地域企業・住民との交流などを活用して支援している。(観点7-1-④)
- 学術情報拠点(情報基盤センター、附属図書館)や各学部等に自習室を、また、インターネットルーム、PCを備えた学習室・自習室などを設け、多くの学生が利用している。(観点7-2-①)
- 学内に体育施設、合宿研修室、学生会館、体育系課外活動共用施設、文化系サークル共用施設を、学外に研修施設などを整備しており、使用規約や利用法などについては、大学のホームページや「学生生活案内」に掲載して周知を図っている。また、「活き²プロジェクト」、「課外活動推進プロジェクト」、「学長表彰」など、学生の自主的活動の活性化を図るための多様な支援も積極的に行っている。(観点7-2-②)
- 「学生生活実態調査」や「学生と教員との意見交換会」、「意見箱」や「電子意見箱」等により、学生の生活支援に関する意見・要望等を収集している。健康相談については、「キャンパスライフなんでも相談室」や指導教員による個別相談などの実施、就職支援については、

「キャリア相談室」，「再チャレンジ支援室」の設置や「キャリアサポーター制度」の創設など，各種ハラスメントへの対応については，「イコール・パートナーシップ推進宣言」により大学としての明確な姿勢を表明するとともに，「イコール・パートナーシップ推進に関するガイドライン」を定め，全学的な取組を行っている。（観点7-3-①）

- 「要支援学生のための支援ガイドライン」や「身体等に障がいのある学生の支援委員会」を設置し，身体に障がいのある学生に対する全学的な支援体制を整備している。また，留学生に対しては，国際交流課や国際教育研究センターを中心として入学時ガイダンス，健康相談，ニーズの把握・対応など，生活支援を行っている他，チューターによる留学生の日常生活のサポートやキャリア開発課による就職支援も行っている。更に，本学独自の取組として，「大分大学外国人留学生友の会」を組織し，緊急時の無料貸付（無利子）等の生活支援を実施している。（観点7-3-②）
- 各種奨学制度の広報及び活用支援，入学料免除及び徴収猶予，授業料免除，寄宿料免除など，学生に対する経済的な支援を行っている。また，これらの情報は学生生活案内やホームページなどにより，適切に周知が図られている。更に，地元銀行と連携して「入学料・授業料奨学融資制度」の創設や，学部の奨学基金を設けるなど，独自の経済支援策も打ち出している。（観点7-3-③）